

花と緑で地域をつなげる

「塩竈市花と緑の会」



▲月見ヶ丘小学校児童、赤坂町内会とともに苗や球根を植えました



「塩竈市花と緑の会」▶
会長佐藤静夫さん

塩竈市花と緑の会は、市内の婦人会や町内会、児童生徒とともに樹木・花を通して、心のいやしや命の大切さ、そして次世代の育成を目的として地域社会に奉仕することを目的に活動している団体です。震災後、伊保石地区の仮設住宅周辺に花を植える活動から始まり、被災地を花で元気にしようという各地から届けられた種や苗を、市内の花壇や学校などに植え、手入れをしています。「支援いただいた方への一番の恩返しは、その花をきれいに咲かせ続けること」という思いで活動しているそうです。

11月1日に、月見ヶ丘小学校環境美化委員会の児童や赤坂町内会の皆さんと一緒に、水仙の球根や市の花である白菊(ハマギク)の苗を植えました。

月見ヶ丘小学校の花壇は、町内会と協力して手入れをしていて、小学校の児童たちと一緒に活動することは初めての試みです。

児童たちは「どれぐらい掘ったらいいですか」「球根は何個入れていますか」などと質問し、植え方を教わりながら真剣な表情で植えていました。

花と緑の会会長佐藤静夫さんは「自分で植えることで、興味をもつて花を見ることができると思っています。皆さんにも特に月見ヶ丘小学校の花壇を見てほしいですね」と話してくれました。

震災後に始まった地域を元気づける活動は、それだけにとどまらず、地域の人々や学校をつなげてコミュニティを広げていく活動になっています。

塩竈市花と緑の会 会員募集!

現在会員を募集しています。会費など詳しくは問合せください。

問 塩竈市花と緑の会 相澤

☎080-228008-6788



シリーズ 日本遺産 「政宗が育んだ“伊達”な文化」と塩竈

災害、そして新たなまちづくり



伊達政宗が仙台に城と城下町の建設を始めて10年後の慶長16年(1611年)、地震と津波が三陸沿岸から仙台平野を襲いました。その後も東北地方の太平洋沿岸では、明治三陸津波や昭和三陸津波などの地震・津波による被害が記録されています。また、昭和35年(1960年)のチリ地震津波では、本市の津波の高さが3.7mになり、船は道路に押し上げられ、海水が家の中流れ込みました。死者2人、けが人76人のほか、多くの家屋が被害を受けました。

ほかにも、江戸時代末期には総戸数の7割にあたる337戸が焼失したり、太平洋戦争末期には、市の中心部が米軍機による爆撃を受けたりと、これまで繰り返し被害を受けてきました。

「文化の港シオモ」ホームページ <http://shiomomo.jp/shinsai>

自然災害や社会情勢の混乱に巻き込まれ、町に暮らす人々の営みは一変してしまいました。しかし、いつの時代にも立ち上がろうとする人々がいます。明治初期に建てられた旧糸びや旅館(御釜神社向かい)は、戦災や宮城県沖地震にも耐え、旅館、茶舗、カフェと形を変えながら市民に親しまれています。そこで現在カフェを営んでいる菊池さんは「歴史や建物好きな方によく声をかけていただきます。塩竈の歴史をあまり知らない子どもたちにも、旧糸びや旅館を建てた先人のすごさ、塩竈の良さを見て楽しんでほしい」と話しました。

時代とともに変わりゆく町を眺めながら、変わらないふるさとへの思いを確かめてみませんか。

【参考文献「塩竈の歴史」、「日本被害地震総覧」】



日本遺産



カフェはれま 菊池千尋さん

問 生涯学習課学習支援係 ☎362-2556

防災行政無線で放送された内容を再確認したいときは、自動音声で放送内容を聞くことができます。 防災行政無線確認電話 ☎364-1260



エフエムベイエリア (FM78.1MHz) でも防災行政無線の内容や防災情報を放送していますので、災害時にはラジオを活用ください。

「広報しおがま」は、22,700部製作し、1部当たりの経費(印刷・発送)は68円です。

【塩竈市の人口】 H29.10.31現在

住民基本台帳調べ (前月比)	
人口	54,867人 (+23人)
男	26,211人 (+12人)
女	28,656人 (+11人)
世帯数	23,340戸 (+38戸)

